

2023年主要文献目録

(2023年刊行の文献を掲載対象としている)

国際政治・外交史

著書

【一般】

青野 利彦	第二次世界大戦終結からキューバ危機まで	中央公論新社
青野 利彦	ベトナム戦争からソ連崩壊まで	中央公論新社
明石 欽司、韓 相熙(編)	近代国際秩序形成と法—普遍化と地域化のはざまで	慶應義塾大学出版会
ジャック=アラン・ミレール(監修)、森 綾子、伊藤 啓輔(訳)	底意地の悪い「他者」—迫害の現象学	水声社
ハンナ・アレント(著)、牧野 雅彦(訳)	人間の条件	講談社
イヴ・ラコスト(著)、猪口 孝(日本語版監修)、大塚 宏子(訳)	ヴィジュアル版ラールス 新・地図で見る国際関係—現代の地政学	原書房
五十嵐 元道	戦争とデータ—死者はいかに数値となったか	中央公論新社
石井 貫太郎	入門・現代政治理論	ミネルヴァ書房
犬塚 元、河野 有理、森川 輝一	政治学入門—歴史と思想から学ぶ	有斐閣
岩間 陽子(編)	第二次世界大戦	中央公論新社
上杉 勇司	紛争地の歩き方—現場で考える和解への道	筑摩書房
ルート・ヴォダック(著)、石部 尚登(訳)	右翼ポピュリズムのディスコース—恐怖をあおる政治を暴く[第2版]	明石書店
マイケル・ウォルツァー(著)、萩原 能久(訳)	まっとうな政治を求めて—「リベラルな」という形容詞	風行社
梅森 直之(編)	アポリアとしての和解と正義—歴史・理論・構想	明石書店
遠藤 誠治(編)	国家安全保障の脱構築—安全保障を根本から考え直す	法律文化社
大内 勇也	人権条約形成の国際政治	ナカニシヤ出版
大澤 傑	「個人化」する権威主義体制—侵攻決断と体制変動の条件	明石書店
太田 出、川島 真、森口(土屋) 由香、奈良岡 聰智(編著)	領海・漁業・外交—19～20世紀の海洋への新視点	晃洋書房
岡本 裕一郎	戦争と哲学	マイナビ出版
小田桐 確(編著)	安全保障化の国際政治—理論と現実	有信堂高文社
小山田 紀子、吉澤 文寿、ウォルター・ブリュイエール=オステル(編)	植民地化・脱植民地化の比較史—フランス-アルジェリアと日本-朝鮮関係を中心に	藤原書店
苅部 直、瀧井 一博、梅田 百合香(編著)	宗教・抗争・政治—主権国家の始原と現在	千倉書房
関西学院大学国際学部(編)	国際学入門	関西学院大学出版会
木畑 洋一、中野 聡(責任編集)	二一世紀の国際秩序	岩波書店
木畑 洋一、安村 直己(責任編集)	国民国家と帝国—一九世紀	岩波書店
木畑 洋一、安村 直己(責任編集)	主権国家と革命—一五～一八世紀	岩波書店
草野 大希、小川 裕子、藤田 泰昌(編著)	国際関係論入門	ミネルヴァ書房
久米 郁男(編)	なぜ自由貿易は支持されるのか—貿易政治の国際比較	有斐閣
桑名 映子(編著)	文化外交の世界	山川出版社
小堀 眞裕	歴史から学ぶ比較政治制度論—日英米仏豪	晃洋書房
沢登 文治、手塚 沙織、山岸 敬和(編)	世界諸地域における社会的課題と制度改革	三修社
塩田 潮	安全保障の戦後政治史—防衛政策決定の内幕	東洋経済新報社
篠田 英朗	戦争の地政学	講談社
下條 慎一	政治学原論講義	武蔵野大学出版会
ジョセフ・M・シラキューサ(著)、一政 祐行(訳)	外交史入門	創元社

進藤 栄一	分割された領土—敗戦から戦後へ(進藤栄一著作集—地殻変動する世界 第1巻)	花伝社
神保 謙、廣瀬 陽子(編)	流動する世界秩序とグローバルガバナンス	慶應義塾大学出版会
デイヴィッド・スタサヴェージ(著), 立木 勝(訳)	民主主義の人類史—何が独裁と民主を分けるのか?	みすず書房
副島 英樹	ウクライナ戦争は問いかける—NATO東方拡大・核・広島	朝日新聞出版
グウィン・ダイヤー(著), 月沢 李歌子(訳)	戦争と人類	早川書房
高綱 博文、門間 卓也、関 智英(編)	グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	勉誠社
高端 正幸、近藤 康史、佐藤 滋、西岡 晋(編)	揺らぐ中間層と福祉国家—支持調達の財政と政治	ナカニシヤ出版
滝田 賢治、大芝 亮、都留 康子(編)	国際関係学—地球社会を理解するために	有信堂高文社
竹内 康雄	環境覇権—欧州発、激化するパワーゲーム	日経BP日本経済新聞出版
田中 拓道	福祉国家の基礎理論—グローバル化時代の国家のゆくえ	岩波書店
恒川 恵市	新興国は世界を変えるか—29カ国の経済・民主化・軍事行動	中央公論新社
恒藤 恭	国際法・国際政治・法哲学—自然法の歴史から世界法の概念まで	書肆心水
中谷 和弘	世界の島をめぐる国際法と外交	信山社
中西 輝政	「冷戦終焉」という過ち	PHP研究所
中野 聡、木畑 洋一(責任編集)	冷戦と脱植民地化—二〇世紀後半	岩波書店
永原 陽子、吉澤 誠一郎(責任編集)	二つの大戦と帝国主義—二〇世紀前半	岩波書店
中村 覚(編著)	君主制諸国	ミネルヴァ書房
鳴子 博子	ルソーの政治経済学—その現代的可能性	晃洋書房
橋爪 大三郎	戦争の社会学—はじめての軍事・戦争入門	光文社
原田 大輔	エネルギー危機の深層—ロシア・ウクライナ戦争と石油ガス資源の未来	筑摩書房
サミュエル・P・ハンティントン(著), 川中 豪(訳)	第三の波—20世紀後半の民主化	白水社
東島 雅昌	民主主義を装う権威主義—世界化する選挙独裁とその論理	千倉書房
平田 竹男	世界資源エネルギー入門—主要国の基本戦略と未来地図	東洋経済新報社
福富 満久(編著)	新・国際平和論—対峙する理性とヘゲモニー	ミネルヴァ書房
アダム・プシェヴォスキ(著), 吉田 徹、伊崎直志(訳)	民主主義の危機—比較分析が示す変容	白水社
藤 和彦	ウクライナ危機後の地政学	集英社
ヴィジャイ・ブラシャド(著), 粟飯原 文子(訳)	褐色の世界史—第三世界とはなにか	水声社
クリストファー・ブラットマン(著), 神月 謙一(訳)	戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか	草思社
M・プリンダース(著), 武田 宏子(訳)	それでも政治を擁護する—デモクラシーが重要な理由	法政大学出版局
アレクサンダー・ベッツ、ポール・コリアー(著), 滝澤 三郎(監修), 岡部 みどり、佐藤 安信、杉木 明子、山田 満(監訳)	難民—行き詰まる国際難民制度を超えて	明石書店
ルース・ベン=ギアット(著), 小林 朋則(訳)	新しい権威主義の時代—ストロングマンはいかにして民主主義を破壊するか 上・下	原書房
ベアトリス・ホイザー(著), 奥山 真司、中谷 寛士(訳)	クラウゼヴィッツの「正しい読み方」—『戦争論』入門[新装補訂版]	芙蓉書房出版
バート・S・ホール(著), 市場 泰男(訳)	兵器の誕生とヨーロッパの戦争	平凡社
牧野 雅彦	権力について—ハンナ・アレントと「政治の文法」	中央公論新社
増田 雅之(編著)	大国間競争の新常態	防衛研究所
松葉 類	飢えた者たちのデモクラシー—レヴィナス政治哲学のために	ナカニシヤ出版
三石 善吉	非暴力による防衛戦略—国・地域・村をまもる6つのケーススタディ	明石書店
南塚 信吾	「世界史」の誕生—ヨーロッパ中心史観の淵源	ミネルヴァ書房

南塚 信吾、油井 大三郎、木畑 洋一、山田 朗	軍事力で平和は守れるのかー歴史から考える	岩波書店
宮岡 勲	入門講義安全保障論	慶應義塾大学出版会
宮島 喬、佐藤 成基、小ヶ谷 千穂(編)	国際社会学	有斐閣
村田 晃嗣(編著)	外交と戦略	彩流社
村田 晃嗣、君塚 直隆、石川 卓、栗栖 薫子、秋山 信将	国際政治学をつかむ[第3版]	有斐閣
室井 康成	政治風土のフォークロアー文明・選挙・韓国	七月社
森 聡(編著)	国際秩序が揺らぐときー歴史・理論・国際法からみる変容	有斐閣
森 政稔	アナーキズムー政治思想史的考察	作品社
山田 哲也	国際機構論入門[第2版]	東京大学出版会
山田 満、堀江 正伸(編著)	新しい国際協力論ーグローバル・イシューに立ち向かう	明石書店
吉野 孝(編著)	地域間共生と技術ー技術は対立を緩和するか	早稲田大学出版部
オリバー・リッチモンド(著)、佐々木 寛(訳)	平和理論入門	法律文化社
B・H・リデルハート(著)、上村 達雄(訳)	第二次世界大戦 上・下	中央公論新社
クリスチャン・ルース=スミット(著)、山本 文史(訳)	国際関係論	創元社
羅 芝賢、前田 健太郎	権力を読み解く政治学	有斐閣
マリア・レッサ(著)、竹田 円(訳)	偽情報と独裁者ーSNS時代の危機に立ち向かう	河出書房新社
和田 泰一、高山 裕二(編)	政治思想と啓蒙ーその光と影	ナカニシヤ出版
渡辺 博明	ポピュリズム、ナショナリズムと現代政治ーデモクラシーをめぐる攻防を読み解く	ナカニシヤ出版
渡邊 啓貴(編)	トピックからわかる国際政治の基礎知識ー理論・歴史・地域	芦書房
王 柳蘭、山田 孝子(編)	マイクロストーリーから読む越境の動態	国際書院
히로세 요코 저자(글) [廣瀬陽子 著者(文)]、정철, 김형진 번역[チョンチョル、キム・ヒョンジン 翻訳]	중국과 러시아의 반미전략 [中国とロシアの反米戦略 紛争・戦争と地政学]	빈서재[空西財]

【日本関係】

飯倉 章	第一次世界大戦と日本参戦ー揺らぐ日英同盟と日独の攻防	吉川弘文館
岩谷 將	盧溝橋事件から日中戦争へ	東京大学出版会
植木 安弘、安野 正士(編)	専制国家の脅威と日本一分断の中の外交・安全保障	勁草書房
宇田川 幸大	私たちと戦後責任ー日本の歴史認識を問う	岩波書店
大久保 由理	「大東亜共栄圏」における南方国策移民ー「南方雄飛」のゆくえ	晃洋書房
大矢根 聡(編)	日本の経済外交ー新たな対外関係構築の軌跡	勁草書房
小川原 正道(編著)	日本近現代政治史ー幕末から占領期まで	ミネルヴァ書房
笠原 十九司	日本軍の治安戦ー日中戦争の実相	岩波書店
堅田 智子	アレクサンダー・フォン・シーボルトと明治日本の広報外交	思文閣出版
北岡 伸一	日本陸軍と大陸政策ー1906-1918年	東京大学出版会
小宮 京、伏見 岳人、五百旗頭 薫(編著)	自民党政権の内政と外交ー五五年体制論を越えて	ミネルヴァ書房
境家 史郎	戦後日本政治史ー占領期から「ネオ55年体制」まで	中央公論新社
佐々木 雄一	帝国日本の外交1894-1922ーなぜ版図は拡大したのか	東京大学出版会
佐竹 眞明	フィリピンと日本ー戦争・ODA・政府・人々	梨の木舎
信夫 淳平(原著)、外務省(編著)	満洲問題・日露戦争・終戦講和ー小村外交と国際政局1901-1905	書肆心水
高原 明生、園田 茂人、丸川 知雄、川島 真(編)	日中関係ー2001-2022	東京大学出版会

竹島 正、森 茂起、中村 江里(編)	戦争と文化的トラウマ—日本における第二次世界大戦の長期的影響	日本評論社
ティムール・ダダバエフ、園田 茂人(編)	ウズベク移民と日本社会	東京大学出版会
日ソ戦争史研究会(編)	日ソ戦争史の研究	勉誠出版
羽賀 祥二	軍国の文化—日清戦争・ナショナリズム・地域社会 上・下	名古屋大学出版会
波多野 澄雄、戸部 良一(編著)	日本の戦争はいかに始まったか—連続講義 日清日露から対米戦まで	新潮社
原 暉之、兎内 勇津流、竹野 学、池田 裕子(編著)	日本帝国の膨張と縮小—シベリア出兵とサハリン・樺太	北海道大学出版会
麓 慎一	一九世紀後半における国際関係の変容と国境の形成—琉球・樺太・千島・「竹島」・小笠原	山川出版社
増田 弘(編著)	戦後日本保守政治家の群像—自民党の変容と多様性	ミネルヴァ書房
ベルント・マルティン(著)、林 晶、樺島 正法、ティル・ファンゴア(訳)	太平洋戦争と日独戦時同盟—真珠湾攻撃からドイツの降伏まで	ミネルヴァ書房
南 基正(著)、市村 繁和(訳)	基地国家の誕生—朝鮮戦争と日本・アメリカ	東京堂出版
山口 裕一	日中戦争開戦の経緯	東京図書出版
山口 航	冷戦終焉期の日米関係—分化する総合安全保障	吉川弘文館
山田 央子	文化接触と政治思想—東アジアからの挑戦の諸相	日本評論社
李 秉哲	新冷戦・新デタントと日本の東アジア外交—大平・鈴木・中曽根政権の対韓協力を中心に	東京大学出版会
李 英美	出入国管理の社会史—戦後日本の「境界」管理	明石書店
林 娜	日本の太平洋島嶼国支援研究	クロスカルチャー出版事業部
渡邊 公太	石井菊次郎—戦争の時代を駆け抜けた外交官の生涯	吉田書店

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

荒木 信子	韓国の「反日歴史認識」はどのように生まれたか—終戦から朝鮮戦争までの南朝鮮・韓国紙から読みとく	草思社
家永 真幸	台湾のアイデンティティ—「中国」との相克の戦後史	文藝春秋
伊藤 弘太郎	韓国の国防政策—「強軍化」を支える防衛産業と国防外交	勁草書房
岩崎 育夫	現代アジアの「民主主義」	山川出版社
上杉 妙子	越境兵士の政治人類学—英国陸軍グルカ兵の軍務と市民権	風響社
呉 叡人(著)、梅森 直之、山本 和行(訳)	フォルモサ・イデオロギー—台湾ナショナリズムの勃興1895-1945	みすず書房
小野寺 史郎	近代中国の国家主義(ナショナリズム)と軍国主義(ミリタリズム)	晃洋書房
ケリー・K・ガーシャネック(著)、壁村 正照(訳)	中国の政治戦—「戦わずして勝とう」とする国への対抗戦略	五月書房新社
門間 理良	緊迫化する台湾海峡情勢—台湾の動向二〇一九～二〇二一年	東信堂
茅根 由佳	インドネシア政治とイスラーム主義—ひとつの現代史	名古屋大学出版会
ハーゲン・クー(著)、松井 理恵(編訳)	特権と不安—グローバル資本主義と韓国の中間階層	岩波書店
藏居 良造	藏居良造著作集—中国近現代の政治の流れ	朝日新聞出版
栗田 真広	核のリスクと地域紛争—インド・パキスタン紛争の危機と安定	勁草書房
興梠 一郎	毛沢東—革命と独裁の原点	中央公論新社
小嶋 華津子、磯部 靖(編著)	中国共産党の統治と基層幹部	慶應義塾大学出版会
笹川 裕史	中国戦時秩序の生成—戦争と社会変容—一九三〇～五〇年代	汲古書院
佐藤 孝一	「海洋強国」中国と日・米・ASEAN—東シナ海・南シナ海をめぐる攻防	勁草書房
鈴木 隆弘	近代中国の言論統制—中国国民党宣伝部の成立	晃洋書房
鈴木 董	オスマン帝国の世界秩序と外交	名古屋大学出版会
高岡 豊	「テロとの戦い」との闘い—あるいはイスラーム過激派の変貌	東京外国語大学出版会
谷口 洋志(編著)	中国政治経済の構造的転換	中央大学出版部
多谷 千香子	アラブの冬—リビア内戦の余波	法政大学出版局
津田 浩司	日本軍政下ジャワの華僑社会—「共栄報」にみる統制と動員	風響社
鄭 黄燕	都市化の中国政治—土地取引の展開と多元化する社会	名古屋大学出版会

寺田 貴(編著)	インド太平洋地経學と米中覇権競争—国際政治における経済パワーの展開	彩流社
外山 尚之	ポピュリズム大陸南米	日経BP日本経済新聞出版
長沢 栄治、後藤 絵美(編)	現代イスラーム講義	東京大学出版会
中西 輝政(編)	外交と歴史から見る中国	ウェッジ
中西 久枝	イスラーム世界と平和	創元社
中村 元哉(編著)	改革開放萌芽期の中国—ソ連観と東欧観から読み解く	晃洋書房
日本国際問題研究所(編)	移行期にある国際秩序と中東・アフリカ	日本国際問題研究所
日本国際問題研究所(編)	習近平政権研究	日本国際問題研究所
野嶋 剛	台湾の本音—“隣国”を基礎から理解する	光文社
ラシード・ハーリディー(著), 鈴木 啓之、山本 健介、金城 美幸(訳)	パレスチナ戦争—入植者植民地主義と抵抗の百年史	法政大学出版局
原 民樹、西尾 善太、白石 奈津子、日下 涉(編著)	現代フィリピンの地殻変動—新自由主義の深化・政治制度の近代化・親密性の歪み	花伝社
ジャン=フランソワ・バイヤール(著), 加茂 省三(訳)	アフリカにおける国家—腹の政治	晃洋書房
マックス・ヘイスティングス(著)平賀 秀明(訳)	ヴェトナム—壮大な悲劇1945-1975 上・下	白水社
真嶋 麻子	UNDPガバナンスの変容—ラテンアメリカにおける現地化政策の実践から	国際書院
舛方 周一郎、宮地 隆廣	世界の中のラテンアメリカ政治	東京外国語大学出版会
松田 素二(編)	アフリカを学ぶ人のために	世界思想社
室井 義雄	石油資源の呪い—ナイジェリア政治経済史	東京図書出版
望月 葵	グローバル課題としての難民再定住—異国にわたったシリア難民の帰属と生存基盤から考える	ナカニシヤ出版
山下 清海	日本人が知らない戦争の話—アジアが語る戦場の記憶	筑摩書房
遊川 和郎、湯浅 健、日本経済研究センター(編著)	点検習近平政権—長期政権が直面する課題と展望	文眞堂
于 海春	中国のメディア統制—地域間の「不均等な自由」を生む政治と市場	勁草書房
横田 貴之(編著)	エジプト	ミネルヴァ書房
李 昊	派閥の中国政治—毛沢東から習近平まで	名古屋大学出版会
李 立峯(編), ふるまい よしこ、大久保 健(訳)	時代の行動者たち—香港デモ2019	白水社
羅 冠聡(著), 串山 大(訳)	香港人に希望はあるか	季節社
羅 冠聡、方 禮倫(著), 中原 邦彦(訳)	フリーダム—香港人の自由はいかにして奪われたか、それをどう取り戻すか	季節社
若林 正丈	台湾の半世紀—民主化と台湾化の現場	筑摩書房
渡辺 司	グローバル化時代のアルジェリア—「アルジェリア戦争」から「ポスト新自由主義」へ	明石書店

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

浅田 正彦、玉田 大(編著)	ウクライナ戦争をめぐる国際法と国際政治経済	東信堂
ガリア・アッケルマン、ステファヌ・クルトワ(編), 太田佐絵子(訳)	ヴラジミール・プーチン—KGBが生んだ怪物の黒い履歴書 上・下	原書房
油本 真理、溝口 修平(編)	現代ロシア政治	法律文化社
エマニュエル・アルマンドン(著), 村松 恭平(訳)	ウクライナの地政学	白水社
ジャン=イヴ・カミュ、ニコラ・ルブール(著), 木村 高子(訳)	ヨーロッパの極右	みすず書房
石田 勇治	過去の克服—ヒトラー後のドイツ	白水社
板橋 拓己、妹尾 哲志(編著)	現代ドイツ政治外交史—占領期からメルケル政権まで	ミネルヴァ書房

伊藤 詔子、中野 博文、肥後本 芳男(編著)	アメリカ研究の現在地—危機と再生	彩流社
伊藤 定良	第一次世界大戦への道とドイツ帝国	有志舎
今井 宏平	戦略的ヘッジングと安全保障の追求—2010年代以降のトルコ外交	有信堂高文社
今井 宏平、岩坂 将充	エルドアン時代のトルコ—内政と外交の政治力学	岩波書店
マールテン・ヴァン・ヒンダーアハター、ジョン・フォックス(編著)、金澤 周作、桐生 裕子(監訳)	ナショナリズムとナショナル・インディファレンス—近現代ヨーロッパにおける無関心・抵抗・受容	ミネルヴァ書房
バーバラ・F・ウォルター(著)、井坂 康志(訳)	アメリカは内戦に向かうのか	東洋経済新報社
臼井 陽一郎、中村 英俊(編著)	EUの世界戦略と「リベラル国際秩序」のゆくえ—ブレグジット、ウクライナ戦争の衝撃	明石書店
王寺 賢太	消え去る立法者—フランス啓蒙における政治と歴史	名古屋大学出版会
岡山 裕、前嶋 和弘	アメリカ政治	有斐閣
小田中 章浩	戦争と劇場—第一次世界大戦とフランス演劇	水声社
川久保 文紀	国境産業複合体—アメリカと「国境の壁」をめぐるボーダースタディーズ	青土社
河越 真帆	EU共通航空政策の軌跡と変容—域内市場統合から域外進出へ	吉田書店
川出 良枝	平和の追求—18世紀フランスのコスモポリタニズム	東京大学出版会
河西 陽平	スターリンの極東戦略1941-1950—インテリジェンスと安全保障認識	慶應義塾大学出版会
河音 琢郎、豊福 裕二、野口 義直、平野 健(編)	21世紀のアメリカ資本主義—グローバル蓄積構造の変容	大月書店
北住 炯一	ドイツ連邦憲法体制の成立—連合国・基本法・連邦主義	成文堂
君塚 直隆	女王陛下の影法師—秘書官からみた英国政治史	筑摩書房
国末 憲人	ロシア・ウクライナ戦争—近景と遠景	岩波書店
栗原 優	ヒトラーと第二次世界大戦	ミネルヴァ書房
ドミニク・ゲツパート(著)、進藤 修一、爲政 雅代(訳)	ドイツ人が語るドイツ現代史—アデナウアーからメルケル、シュルツまで	ミネルヴァ書房
スラーヴァ・ゲローヴィチ(著)、大黒 岳彦(訳)	ニュースピークからサイバースピークへ—ソ連における科学・政治・言語	名古屋大学出版会
小泉 悠	終わらない戦争—ウクライナから見える世界の未来	文藝春秋
佐藤 香寿実	承認のライシテとムスリムの場所づくり—「辺境の街」ストラスプールの実践	人文書院
クリスチャン・サルモン(著)、ダコスタ 吉村 花子(訳)	道化師政治家の時代—トランプ、ジョンソンを生み出したアルゴリズム戦略	原書房
塩川 伸明(編)、松里 公孝、大串 敦、浜 由樹子、遠藤 誠治(著)	ロシア・ウクライナ戦争—歴史・民族・政治から考える	東京堂出版
塩田 潤	危機の時代の市民と政党—アイスランドのラディカル・デモクラシー	明石書店
渋谷 博史	トランプ財政とアメリカ第一主義	東京大学出版会
ヘンリー・シュー(著)、馬淵 浩二(訳)	基本権—生存・豊かさ・合衆国の外交政策	法政大学出版局
住田 育法、牛島 万(編著)	南北アメリカ研究の課題と展望—米国の普遍的価値観とマイノリティをめぐる論点	明石書店
ロバート・B・ゼーリック(著)、旭 英昭(訳)	アメリカ・イン・ザ・ワールド—合衆国の外交と対外政策の歴史 上・下	日経BP日本経済新聞出版
高橋 杉雄(編著)	ウクライナ戦争はなぜ終わらないのか—デジタル時代の総力戦	文藝春秋
高橋 秀寿	反ユダヤ主義と「過去の克服」—戦後ドイツ国民はユダヤ人とう向き合ったのか	人文書院
竹沢 泰子	アメリカの人種主義—カテゴリー/アイデンティティの形成と転換	名古屋大学出版会
月村 太郎	バルカンの政治	東京大学出版会
津阪 直樹	ルポリベラル嫌い—欧州を席卷する「反リベラリズム」現象と社会の分断	垂紀書房
辻 雄一郎	行政機関の憲法学的統制—アメリカにおけるコロナ、移民、環境と司法審査	日本評論社
鶴岡 路人	欧州戦争としてのウクライナ侵攻	新潮社
永井 雄一郎	冷戦とアイゼンハワー政権の宇宙政策	日本評論社
中内 政貴、田中 慎吾(編)	外交・安全保障政策から読む欧州統合	大阪大学出版会

中田 潤	ドイツ「緑の党」史—価値保守主義・左派オルタナティブ・協同主義的市民社会	吉田書店
中村 優介	イギリスの戦後ヨーロッパ構想とフランスの再興—大陸と大西洋のはざままで	慶應義塾大学出版会
中山 俊宏	アメリカ知識人の共産党—理念の国の自画像	勁草書房
中山 俊宏	理念の国がきしむとき—オバマ・トランプ・バイデンとアメリカ	千倉書房
中山 洋平、水島 治郎	ヨーロッパ政治史	放送大学教育振興会
間 寧	エルドアンが変えたトルコ—長期政権の力学	作品社
バジョット(著)、遠山 隆淑(訳)	イギリス国制論 上・下	岩波書店
服部 正法	裏切りの王国—ルポ・英国のナショナリズム	白水社
デルフィヌ・パパン(編)、蔵持 不三也(訳)	ロシア地政学地図	柘風舎
ミシェル・ピアール(著)、小井 高志(訳)	自決と粛清—フランス革命における死の政治文化	藤原書店
東 大作	ウクライナ戦争をどう終わらせるか—「和平調停」の限界と可能性	岩波書店
広瀬 佳一、小久保 康之(編著)	現代ヨーロッパの国際政治—冷戦後の軌跡と新たな挑戦	法律文化社
廣田 尚久	ウクライナ戦争と和平方則	東京図書出版
シェイラ・フィッツパトリック(著)、池田 嘉郎(監訳)、真壁 広道(訳)	ソ連の歴史	人文書院
福田 耕治(編著)	EU・欧州統合の新展開とSDGs	成文堂
福原 宏幸、中村 健吾、柳原 剛司(編)	コロナ危機と欧州福祉レジームの転換	昭和堂
アンドリュー・プレストン(著)、島村 直幸(訳)	アメリカの対外関係を俯瞰する	晃洋書房
ベンジャミン・カーター・ヘット(著)、寺西 のぶ子(訳)	ヒトラーはなぜ戦争を始めることができたのか—民主主義国の誤算	垂紀書房
パスカル・ペリノー(著)、中村 雅治(訳)	ポピュリズムに揺れる欧州政党政治	白水社
アリス・ポータ(著)、岩井 智子、岩井 方男(訳)	女たちのベラルーシ—革命、勇気、自由の希求	春秋社
細谷 雄一(編)	ウクライナ戦争とヨーロッパ	東京大学出版会
本間 圭一	アメリカ国務省—世界を動かす外交組織の歴史・現状・課題	原書房
保坂 三四郎	諜報国家ロシア—ソ連KGBからプーチンのFSB体制まで	中央公論新社
松浦 一悦	EUの経済・通貨同盟—ガバナンス改革と欧州単一通貨制度のゆくえ	晃洋書房
松岡 完	ケネディという名の神話—なぜ私たちが魅了し続けるのか	中央公論新社
松里 公孝	ウクライナ動乱—ソ連解体から露ウ戦争まで	筑摩書房
真野 森作	ルポ プーチンの破滅戦争—ロシアによるウクライナ侵略の記録	筑摩書房
カール・マルクス(著)、石井 知章、福本 勝清(編訳)周 雨霏(訳)	—18世紀の秘密外交史—ロシア専制の起源	白水社
ミシェル・マルゲラーズ、ダニエル・タルタコウスキ(著)、中山 洋平、尾玉 剛士(訳)	解けていく国家—現代フランスにおける自由化の歴史	吉田書店
簗原 俊洋	大統領から読むアメリカ史	第三文明社
宮脇 昇(編著)	ウクライナ侵攻はなぜ起きたのか—国際政治学の視点から	早稲田大学出版部
エドガール・モラン(著)、杉村 昌昭(訳)	戦争から戦争へ—ウクライナ戦争を終わらせるための必須基礎知識	人文書院
八嶋 由香利(編著)	スペイン 危機の二〇世紀—内戦・独裁・民主化の時代を生きる	慶應義塾大学出版会
山本 直	オルバンのハンガリー—ヨーロッパ価値共同体との相剋	法律文化社
義澤 幸恵	オランダのムスリム移民—「柱状化」と多文化主義の可能性	明石書店
ディーター・ランゲヴィーシェ(著)、飯田 芳弘(訳)	統一国家なき国民—もう一つのドイツ史	みすず書房
フレドリック・ロゲヴァル(著)、高月 園子(訳)	JFK—「アメリカの世紀」の新星1917-1956 上・下	白水社
渡辺 靖	現代アメリカの政治と社会	放送大学教育振興会
和田 萌	移民を排除する安全保障—フランスにおける「つくられた脅威」	勁草書房

히로세 요코(저자)[廣瀬 陽子(著)], 정철, 김형진(번역)[チヨン・チョル, 김・ヒョン진(訳)]	중국과 러시아의 반미전략 [中国とロシアの反米戦略—紛争・戦争と地政学]	빈서재 [空西財]
---	---------------------------------------	-----------

【資料】

外務省(編)	日本外交文書 沖縄返還(第一巻)—第三次吉田内閣期から池田内閣期まで	六一書房
カミーユ・ゴルジェ、ピエール=イヴ・ドンゼ、クロード・ハウザー(著), 鈴木 光子(訳)	駐日スイス公使が見た第二次世界大戦—カミーユ・ゴルジェの日記	大阪大学出版会
習近平	習近平—国政運営を語る	外文出版社
マンスール・セファトゴル	サファヴィー朝期イランの王室官房書簡記録簿—外交文書草稿・往来・作成要領の記録(ヨーロッパ、オスマン朝、ムガル朝、中央アジア諸ハン国との対外関係に関する研究)	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター
朴正熙(著), 李慶守(訳), 金慶昭(編)	韓民族の進路—社会再建の理念	展望社
ウラジーミル・プーチン(著), 山形 浩生(編訳)	プーチン重要論説集	星海社

論文(国際政治・外交史)

【一般】

青木 節子	宇宙安全保障と国際法	国際問題716
浅田 正彦	国際法から新国家安全保障戦略を読み解く	国際問題716
一政 祐行	抑止力としての多国間合意の検証制度—軍備管理と気候変動を中心に—	安全保障戦略研究3(2)
一政 祐行	「冷戦2.0」と軍備管理	安全保障戦略研究4(1)
上野 友也	戦場のLGBT—戦時性暴力の被害と国連安全保障理事会における対立	平和研究59
大西 健	既成事実化への対応策としての強要・強制外交—実績と失敗の原因—	安全保障戦略研究3(1)
岡垣 知子	国際システムの「極」をめぐる議論の行方	国際安全保障51(3)
小川 玲子	移住ケア労働者をめぐる多様な脆弱性と人権保障	平和研究59
尾立 素子	人道開発支援現場での性的搾取・虐待からの保護—2000年以降の進捗と課題	平和研究60
片柳 真理	ビジネスの平和への貢献—SDGsを推進するコミュニティ形成—	国際政治208
蟹江 憲史	SDGsとグローバル・ガバナンス	国際政治208
黒崎 将広	能動的サイバー防御の国際法枠組み：武力未満と違法性阻却による正当化の可能性	国際問題716
小林 綾子	紛争再発と和平合意	国際政治210
今野 茂充	反実仮想と安全保障研究 —1914年7月危機についての思考実験—	国際安全保障51(3)
島本 奈央	マイノリティの集団的権利—マイノリティから自決権行使主体への接近可能性	平和研究60
庄司 真理子	安全保障をめぐる国連と地域的機構	国連研究24
瀬岡 直	国際連合における拒否権の本質的制約—ウクライナ情勢におけるロシアの拒否権行使をめぐる—	国連研究24
瀬戸 崇志	パブリックアトリビューションの「拡散」と「多様化」—政策当局間の「多様化」の国際比較研究—	安全保障戦略研究3(2)
高尾 珠樹	地球環境問題協議枠組み間の連携促進にSDGsがもたらす効果—海洋プラスチックごみ問題に関する協議を事例に—	国際政治208
武田 幸男	テロ対策における懐柔策—現在の到達点と今後の地平—	安全保障戦略研究3(2)
田中 佐代子	「反撃能力」と国際法上の自衛権：反撃能力の行使は「国際法違反の先制攻撃」か？	国際問題716
田中 極子	安保理による立法的行為の評価—安保理決議1540の国内履行からの考察	国連研究24
田邊 俊明	核兵器禁止条約とポスト主権型立憲平和主義	平和研究59
千々和 泰明	終戦と同盟—伝統的多国間戦争終結の事例研究—	国際安全保障51(1)
土野 瑞穂	「紛争下における女性への性暴力」研究の再考—先行研究のレビューを通して—	平和研究60
内記 香子	持続可能な都市開発に関する規範の発展過程—SDG11、スマートシティ規範、データガバナンス—	国際政治208
中村 長史	出口戦略研究の現在—必要性・困難性・可能性—	国際安全保障51(1)

中村 進	反撃能力と武力紛争法上の課題：付随的損害への対応を巡る議論を中心に	国際問題716
中山 裕美	難民・移民に対する国際的な協力体制の再興に向けて	国際政治210
西田 竜也	新冷戦下の国家の対外行動—バランスと同盟を中心に—	国際安全保障51(3)
西村 弓	海洋安全保障と国際法：武力紛争時における海上法執行機関の位置付け	国際問題716
野口 和彦	攻撃的リアリズムの解剖学	国際安全保障51(3)
馬路 智仁	グローバルな国際政治思想のなかの植民政策学—「間・帝国史的思想循環」という試み—	国際関係論研究38
林 明仁	SDGs時代の開発NGO—主流化の中の周縁化—	国際政治208
藤巻 裕之	兵器の自律化と国際政治—戦場における人間とマシンの未来—	国際政治208
二村 まどか	出口戦略と戦犯訴追—戦争から平和への移行期政策—	国際安全保障51(1)
古澤 嘉朗	平和構築と平和学—紛争解決論という視座からみる平和構築	平和研究60
前田 幸男	ノン・ヒューマンの政治理論からの「持続可能な開発目標」の再構成—いのちの循環を自覚できる主体の立ち上げのために—	国際政治208
松元 雅和	平和研究としての政治哲学—「理想」を再定義する	平和研究60
御代田 有希	ESG投資を通じた機関投資家のSDGsへの貢献	国際政治208
山崎 望	徘徊するシュミットとマルクスの亡霊—岐路に立つ自由民主主義—	国際政治209
若狭 彰室	Jus Post Bellumと出口戦略	国際安全保障51(1)
Setsuko Aoki	Banning Direct-Ascent Anti-Satellite (ASAT) Missile Tests	Policy Paper Governing the Global Commons: Challenges and Opportunities for US-Japan Cooperation (German Marshall Fund, 2023), pp. 39-41.
Saadia Pekkanen, Setsuko Aoki, Yumiko Takatori	Japan in the New Lunar Space Race	Space Policy, 18 August 2023 online (https://doi.org/10.1016/j.spacepol.2023.101577), pp. 2-13.

【日本関係】

相川 一俊	最近のイラン情勢と日本外交	中東研究549
浅野 和生	「自由で開かれたインド太平洋」戦略と日本外交—FOIPの生成と変化および首脳声明における台湾問題への言及について—	問題と研究52(3)
晏 妮	文革後における日中映画交流の蜜月—映画交流の歴史文脈から	現代中国研究50
石原 雄介	検証「瓶の蓋」論—1970年代初頭日米中三国間の議論と不一致—	安全保障戦略研究3(2)
石本 凌也	日本にとって「デタント」とは何だったのか —冷戦変容期における国際政治環境認識とその影響—	国際安全保障51(3)
石本 凌也	米ソ戦略兵器制限交渉をめぐる日本外交 —一九七二—一九七九年—「被爆国」である「同盟国」の受容と主張—	国際政治209
江藤 名保子	日中関係の総点検と今後の展望	現代中国97
榎本 泰子	シルクロードブームの歴史的意義—戦後日本人の世界観と中国	現代中国研究50
王 彦麟	エネルギー安全保障と日本の対外政策—日米関係を中心に—	問題と研究52(3)
岡田 美保	日ソ国交回復交渉—「冷戦の受益者日本」の意味をめぐる交錯—	国際政治209
小熊 真也	日本の安全保障政策決定における官邸主導—第一次安倍政権以降の展開—	安全保障戦略研究3(2)
小野 坂元	ILO 設立期の国際労働問題と岡実—国際労働基準の設定と国際関係の階層性—	国際関係論研究38
河西 陽平	ロシア連邦保安庁所蔵資料にみる大島駐独大使：1942年	国際情勢93
加治 宏基	日中関係へのもう一つの視角—戦後国際秩序という構造的要因	現代中国97
川口 貴久	日本の経済安全保障政策におけるサイバーセキュリティ強化—背景としての米中対立と2つのサイバーセキュリティ問題—	グローバル・ガバナンス9

川崎 剛	日本の大戦略における経済安全保障推進法	グローバル・ガバナンス9
川名 晋史	米中和解後の在日国連軍基地の存続をめぐる政治過程	国際安全保障51(2)
神田 豊隆	岸派・清和会の政治的系譜と対中・対ソ外交—岸信介・椎名悦三郎・福田赳夫・安倍晋太郎を中心に	現代中国97
神田 豊隆	日本社会党の講和論争とコムスコ・社会主義インターナショナル—冷戦下の「社会民主主義外交」をめぐる葛藤—	国際政治209
黒崎 輝	冷戦と日本外交	国際政治209
巖 善平	日中経済関係の移り変わりとその背景—1980年代以降を中心に—	現代中国97
崔 智喜	中曽根政権期の対北朝鮮外交に関する研究—政府及び非政府レベルの2トラック外交に焦点を当てて—	国際政治210
齋藤 達志	ガダルカナル補給戦の実相—日本側の視点から—	安全保障戦略研究3(1)
齋藤 達志、尾上 盛太郎	戦史の編さんに関する—考察—防衛研修所戦史室『戦史叢書』編さんのための史料収集を中心に—	安全保障戦略研究4(1)
柴田 茂紀	日本のOECD加盟とドル防衛問題—冷戦・国際貿易・国際金融の異なる論理—	国際政治209
柴田 晃芳	日本の安全保障政策の柔軟化と政権交代	問題と研究52(3)
白戸 圭一	大国間競争の中のアフリカと日本外交：ロシア、中国のアフリカ政策から考える	国際問題714
神保 謙	日本の安全保障戦略の新しい展開	国際問題715
鈴木 量博	再選後のエルドアン政権の方向性と日トルコ関係	中東研究548
ソメン・リーベン	「メディア化の4局面」と戦間期における外務省情報部創設の意義—1905～1922	インテリジェンス23
高島 太	日米同盟の補完性—同盟の経済学に基づく計量分析—	安全保障戦略研究3(1)
滝崎 成樹	経済安全保障をめぐる日本政府の取組	グローバル・ガバナンス9
田中 慎吾	日英原子力一般協定(一九五八年)—「自主」の試みとその変容—	国際政治209
張 雲	「米国中心主義思考」の脱却と日中関係50年の総点検	現代中国97
張 彬彬	日ソ・シベリア開発協力問題の政治史的考察—田中政権期を中心として—	国際関係論研究38
恒川 恵市	変化する国際秩序におけるグローバル・サウスと日本	国際問題714
中嶋 晋平	簡閲点呼における軍艦および軍楽隊派遣にみる大正期の日本海軍による広報活動	インテリジェンス23
中西 寛	「時代の転換期」と日本の安全保障政策	国際問題715
中村 登志哉	なぜ今、経済安全保障推進法なのか	グローバル・ガバナンス9
畠山 京子、ミラー 枝里香	日本のエネルギー安全保障—国際構造と相互依存の視点から—	国際安全保障50(4)
林 成蔚、加藤 洋一	台湾有事論と日本の安全保障戦略	国際問題715
林 賢参	安全保障関連3文書の改訂から見る日本防衛政策の大転換	問題と研究52(3)
原科 颯	明治憲法の制定とイギリス立憲君主制	年報政治学2023(1)
福本 正樹	「邀撃帯」構想と島嶼守備—日本陸軍の「海上機動反撃」構想を中心に—	安全保障戦略研究4(1)
牧野 久美子	日本における反アパルトヘイト国際連帯運動	国際政治210
松原 治吉郎	シベリア出兵と帝国陸軍の近代化—航空兵力の建設を中心として—	安全保障戦略研究3(1)
三沢 伸生	近現代における日本・トルコ関係の推移	中東研究548
宮本 雄二	日中国交正常化50周年：建設的で安定した関係の再構築は可能か	国際問題711
村上 強一	航空自衛隊における救難組織の創設経緯—急がれた部隊建設—	安全保障戦略研究4(1)
毛里 和子	日中国交正常化50年をどう考えるか？	現代中国97
山口 昌也	陸軍大学校「専攻学生」の研究	安全保障戦略研究3(2)
山口 昌也	日本海軍における海軍大学校の教育改革とその成果の継続—「軍政学」の観点から—	安全保障戦略研究4(1)
楊 伯江	正常化50周年に当たる中日関係：現状と課題	現代中国97
葉 秋蘭	安倍政権下における対ベトナム原発輸出戦略	問題と研究52(4)
李 秉哲	新冷戦期における朝鮮半島問題と日本の対応—北朝鮮の国際海事機関(IMO)加盟問題を中心に—	国際政治209
李世暉	経済安全保障下の日中台関係：地経学から見た地域経済統合	問題と研究52(4)

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

相田 守輝	中国空軍をめぐるデジタル・トランスフォーメーション—新しい整備管理システム導入から見える取り組み—	安全保障戦略研究3(2)
青木 まき	「竹の外交」から「多元的外交」へ—戦後タイ外交再考のための論点整理と課題提示—	アジア経済64(2)

青木 健太	イラン・サウジアラビア関係正常化合意の背景と展望—イランの戦略的視座と想定され得る狙い	中東研究548
青木 健太	イランの外交政策におけるグローバル・サウス—国際秩序の変容と多角化するイラン外交	中東研究549
青山 瑠妙	「陣営化」する世界と中国のグローバル・サウス政策	国際問題711
足立 好正	LTTE撲滅に向けたスリランカの取組みについて—ラージャパクサ政権以前の取組みに関する一考察—	安全保障戦略研究3(1)
泉川 泰博	北東アジア安全保障システムの経路依存性と決定的分岐点	国際安全保障51(3)
伊豆山 真理	ミャンマーに対するインドの「民主化支援」—民主主義的価値と地政学的利益との弁証法	アジア研究69(3)
稲垣 文昭	冷戦崩壊を契機とした旧ソ連空間におけるエネルギー政策の変化—対立から協調関係に転じた中央アジアを事例に—	国際安全保障50(4)
今井 宏平	トルコの中東政治の変遷とその特徴—公正発展党政権期を中心に—	中東研究548
今野 泰三	右派政権復活と「民主主義の危機」言説の陥穽	中東研究547
上野 友也	文民の保護における限界と無限—南スーダン国連平和維持活動を考察して—	国際政治210
宇山 智彦	多方面外交を維持・拡大する中央アジア：分断ではなく競争を求める中小国	国際問題714
江崎 智絵	イスラエルによる秩序の模索とグローバル・サウス—軍事力と外交の狭間で	中東研究549
遠藤 貢	アフリカにおける政治体制変動の評価をめぐって—「新自由主義的専制体制」の生成メカニズム—	国際政治210
汪 牧耘	中国における国際開発研究の受容と展開—脱「欧米中心主義」の可能性の一考察—	アジア経済64(3)
大庭 三枝	日ASEAN50周年：日本は東南アジアとどう向き合ってきたのか	国際問題713
大矢根 聡	ミャンマー政変と地域・国際構造—地域研究と理論研究の交点から	アジア研究69(3)
岡田 実	琉球弧をめぐる国際環境の変容と越境地域開発協力の新展開—黒潮生活経済圏構想を手がかりに—	問題と研究52(4)
笠井 亮平	インドとグローバル・サウス、そして中東	中東研究549
金子 真夕	転換期におけるトルコとNATOの新展開—変革と維持の同盟関係	中東研究548
金子 真夕	トルコはグローバル・サウスなのか—西側支配に挑戦する「台頭国」としての戦略	中東研究549
苅込 俊二	米中対立とベトナムのグローバリゼーション	国際問題713
関 日昇	北満山間部農村における抗日民族統一戦線の形成と地域社会—農村有力者、土匪、共産党の関係を中心に	アジア研究69(2)
菊池 努	ASEANの中心性：ASEANはインド太平洋秩序の一翼を担えるか	国際問題713
倉田 徹	習近平が描く香港「一国二制度」の未来像	問題と研究52(1)
栗田 真広	中国・パキスタン経済回廊の再検討—CPECの「商業性」に着目して—	安全保障戦略研究3(2)
紅葉 夏姫	1980年代の中国人民解放軍における「軍縮」—1985年の100万人削減に関する再考察—	安全保障戦略研究3(1)
子安 昭子	ブラジルの多方位外交：国益重視と多極世界のビジョンで挑むルーラ大統領	国際問題714
近藤 重人	大国間競争を利用するサウジアラビア：2022年2月のウクライナ侵攻以降の対米中ロ外交	国際問題714
近内 みゆき	トルコにおける政治と宗教の今—AKP 政権の北キプロスにおけるイスラーム化を事例に	中東研究547
佐藤 百合	インドネシアの経済政策・外交政策とASEAN統合	国際問題713
島戸 治江	包括的、持続的成長を目指すASEAN：高まるDXへの期待と金融分野のスタートアップ動向	国際問題713
清水 信介	チュニジア情勢とTICAD開催	中東研究547
庄司 智孝	ASEANの安全保障—中立性から中心性へ—	安全保障戦略研究3(2)
荊 元宙、五十嵐 隆幸	中国が目指す非接触型「情報化戦争」—物理領域・サイバー領域・認知領域を横断した「戦わずして勝つ」戦い—	安全保障戦略研究4(1)
スーザン・シャーク	習近平政権の「オーバーリーチ」	現代中国97
杉木 明子	二一世紀アフリカにおける国家と国際関係	国際政治210
鈴木 隆	「内部文献」にみる習近平の保守・愛国・強国	国際情勢93
鈴木 早苗	ASEANのミャンマーへの関与とその変化	アジア研究69(3)
高尾 賢一郎	サウジアラビアが見据える「国際社会」の多様化とグローバル・サウス	中東研究549
高岡 豊	紛争後のシリアにおける部族出身議員輩出のメカニズム	国際安全保障51(2)
高木 佑輔	新興国フィリピンの外交：対米関係の強化、地域外交の深化と国際主義外交の展開	国際問題714
高橋 雅英	中東の原子力発電市場におけるロシア—燃料供給国としての強み	中東研究547
高橋 雅英	韓国の中東政策—経済・エネルギー関係と軍事的関与	中東研究548
高島 太	同盟が貿易に与える影響についての一考察—1991年から2020年のインド太平洋地域を事例として—	国際安全保障50(4)
山坂 知世、山尾 大、末近 浩太	イスラーム革命防衛隊の海外派兵をめぐるイラン国民の認識—2021年サーベイ実験の結果から—	アジア経済64(1)

戸田 真紀子	紛争を再生産する国家、植民地化の遺産、新植民地主義—ナイジェリアのボコ・ハラムを事例として—	国際政治210
早川 和伸	ASEANの機械産業におけるサプライチェーンの変遷	国際問題713
廣野 美和	中国によるミャンマーへの関与—不干渉原則の現実と認識	アジア研究69(3)
藤井 広重	国際刑事裁判所による司法介入とケニアの司法制度改革—ケニアでの不処罰終止に向けられた内と外の論理の変容—	国際政治210
藤井 篤	アルジェリア戦争とベルギー	年報政治学2023(2)
益尾 知佐子	中国の国内統治と安全保障戦略：中国型警察の普及と国際秩序	国際問題715
三船 恵美	中国外交におけるグローバル・サウスと中東	中東研究549
毛利 亜樹	中国における「300万平方kmの海洋国土」認識の形成	アジア研究69(3)
モニカ・サラ・サリ	サイバーセキュリティに関するASEANの地域的取り組みとその有効性	Keio SFC Journal 23(1)
八代 拓	一九七四年東南アジア反日暴動の再検討—「長い六〇年代」における冷戦の変容と学生の叛乱—	国際政治209
葉 長城	米中科学技術戦と北東アジア地域の半導体産業・貿易への影響における政治分析	問題と研究52(4)
吉田 智聡	12月2日革命の失敗とイエメン国民抵抗軍の伸張—柔軟な生存戦略下での西海岸地域支配	中東研究548
吉野 文雄	ASEAN経済共同体の20年	国際情勢93
黎 立仁	日米と連携する中・台湾企業の地経学的発展の一考察：鴻海とTSMCの事例	問題と研究52(1)
渡辺 紫乃	中国のエネルギー安全保障—石油をめぐる中国の対応—	国際安全保障50(4)
渡辺 紫乃	中国アフリカ関係の新展開—ファーウェイによるデジタルインフラ建設とその影響—	国際政治210

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

有江 浩一	極超音速兵器をめぐる米中露の取り組み—核抑止・核軍備管理への含意—	安全保障戦略研究3(2)
伊藤 武	統合懐疑主義の限界—イタリア世論におけるEUと自由貿易支持の検証	日本EU学会年報43
上原 良子	フランスにおけるバスク問題：中央集権とヨーロッパ統合の間	国際情勢93
岡村 優希	EU法における性的マイノリティ保護の展開	日本EU学会年報43
小畑 理香	高等教育分野におけるEUと欧州高等教育圏(EHEA)の協働—学生モビリティ促進のためのベンチマークの事例から	日本EU学会年報43
居石 杏奈	電気通信業への外国投資を巡るグローバル・ガバナンスへの挑戦—米国チームテレコムとCFIUSによる対米投資審査の変遷から見る新機軸—	グローバル・ガバナンス9
粕谷 真司	サッチャー政権のヨーロッパ政策と欧州政治協力：単一欧州議定書と欧州政治協力事務局の設置をめぐる、1984-1986年	国際情勢93
神谷 万丈	対中口姿勢の継続：バイデン政権後半の米国の安全保障政策	国際問題712
川崎 剛	カナダ・トルドー政権の新アジア安全保障政策—評価と展望—	国際安全保障51(1)
川瀬 朗	EUのFTA農業分野交渉における欧州委員会の役割—CETAをめぐる政治過程を事例に	日本EU学会年報43
木下 幸祐	将校の育成とミリタリープロフェッショナルリズム—1970年代の米国陸軍指揮幕僚大学における教育哲学の変化—	安全保障戦略研究3(1)
木下 幸祐	1980年代のアメリカ陸軍指揮幕僚大学における教育改革—学究と思索を重視する教育への変革はどのように成し遂げられたのか—	安全保障戦略研究4(1)
久保 文明	国際秩序の危機と米国の動向	国際問題712
黒岩 容子	EU法におけるジェンダー平等の展開	日本EU学会年報43
桑原田 智之	EU経済社会の持続可能性確保に向けたイニシアティブの実現への展望と日本への含意—農業・食料分野を事例として	日本EU学会年報43
小橋 史行	ドイツ連邦軍域外派遣に関する政策転換の要因—UNTAC派遣を焦点に—	安全保障戦略研究4(1)
小南 有紀	「特別な関係」という考え方：英米関係の現在と日本	国際情勢93
小南 有紀	危機のなかの駐米大使—フォークランド紛争をめぐる英米関係—	国際政治208
佐竹 知彦	米豪同盟に基づく豪軍の第三国有事への関与—過去の事例と今日的含意—	安全保障戦略研究3(1)
高橋 雅英	フランスの対アフリカ政策の転換—仏語圏アフリカにおけるイスラーム過激派とクーデター	中東研究549
田中 亮佑	NATOの改革からみるバルト海地域防衛の変化—2014年と2022年を契機として—	安全保障戦略研究3(2)
谷口 洋幸	ヨーロッパ人権条約とLGBTQ	日本EU学会年報43
玉井 雅隆	欧州における「安全保障」概念と国連の役割の再検討	国連研究24

千々和 泰明	アメリカによる広島・長崎への核兵器使用再考—目的と効果のレベルからのアプローチ—	安全保障戦略研究4(1)
鶴岡 路人	模索する「核同盟」としてのNATO —INF条約失効からロシアによるウクライナ侵攻へ—	国際安全保障51(2)
鶴岡 路人	2022年NATO戦略概念：米欧同盟の現段階	国際問題715
東野 篤子	ウクライナ戦争の現状と展望 —3つの難問—	国際安全保障51(2)
中野 裕二	フランス共和国にとって市民とは何か—共和主義への愛着が見えなくするもの—	国際政治208
中野 聡	市場経済、戦後体制と市民社会の未来—EU社会対話の事例	日本EU学会年報43
西川 太郎	欧州議会へのロビイング—政党グループの「まとまり」の観点から—	国際政治208
西村 もも子	グローバル化と投資協定—投資の自由化と制限をめぐる米国の国内政治—	国際政治208
西山 隆行	2022年アメリカ中間選挙をどう見るか	国際問題712
長谷川 雄之	第2次ロシア・ウクライナ戦争とプーチン体制の諸相 —権力構造と政治エリート—	国際安全保障51(2)
花田 智之	ロシアとクリミアの歴史的位相 —ロシア帝国への固執—	国際安全保障51(2)
引馬 知子	ジェンダー平等と性的指向・LGBTIQの包摂 —国際機関とEUの取組	日本EU学会年報43
廣瀬 陽子	ロシアのウクライナ侵攻とLGBT問題	国際情勢93
深谷 舜	「覇権的平和」を再考する—パクス・ブリタニカとインドの鉄道建設	平和研究60
福島 康仁、八塚 正晃	シスルナ安全保障—シスルナ空間における米中の活動と今後の論点—	安全保障戦略研究3(2)
細井 優子	EUのデモクラシーと市民社会の将来—『欧州の将来に関する会議』の意義	日本EU学会年報43
前嶋 和弘	バイデン政権の対中政策と日米同盟	国際情勢93
真島 啓	人身取引と女性の安全保障からみる買春問題、およびスウェーデンの買春禁止法の影響と課題	国際政治208
松本 佐保	人工妊娠中絶の権利を否定する判決と中間選挙にみるアメリカ社会、その国際政治への波紋	国際問題712
水野 良哉	「米英連邦」の模索—第二次世界大戦初期におけるアーノルド・J・トインビーの世界秩序構想—	国際政治209
溝口 修平	ロシアを束ねるものは何か？—ソ連解体後のロシアにおける歴史と愛国主義—	国際政治209
三宅 康之	ベルギー王国政府の対中承認外交、1970-71年	国際学研究12(1)
宮脇 昇	ウクライナ侵攻後のエネルギー安全保障—接続性の時代から地戦略の時代へ—	国際安全保障50(4)
村上 政俊	米国のエネルギー政策 —エネルギー輸出国への変貌とその地政学的意義—	国際安全保障50(4)
村野 将	ウクライナ戦争後の米国の安全保障戦略	国際問題715
元山 仁士郎	米中接近における沖縄ファクターの検討—米国の対中作戦計画と中国の不干渉—	国際政治209
山本 哲史	ロシアのウクライナ侵攻はなぜ経済制裁では止められないのか—戦略論から見た駆け引きのツールとしての経済制裁の機能分析—	安全保障戦略研究4(1)
渡辺 広樹	ウッド・マクリントック報告の一端から垣間見る1970年代の米軍基地政策	国際情勢93
Yoko Hirose	Impact of US Russia Policy on Russia's Invasion of Ukraine	Asia-Pacific Review, 2023 Vol. 30, No. 1, pp. 33-48.
Yoko Hirose	From the Humanitarian Crisis to the Exemplary Care and Great Return – Heydar Aliyev's Policy for the Wellbeing of the Forcefully Displaced Population	World of Diplomacy, No. 59, 2023, pp. 74-81.